

あしたの風

編集・発行：男女共同参画あきたF・F推進員、大潟村

2019.3 発行

国際女性デーによせて

あきたF・F推進員 柏 雄子

一人ひとりが幸せな社会を実現するために、男女共同参画社会を目指して、毎年3月8日に、国際女性デーを定めています。

先日、秋田市アゴラ広場で、啓発を促すチラシを配ると同時に、通りがかった人たちに「社会は男女平等になっていると思いますか？」と問いかけ、「YES」「NO」の二択で、ボードにシールを貼ってもらいました。結果は、圧倒的に「NO」。男女平等になっていないと考えている人が多く、まだまだ社会や家庭、職場で差別が広く残っていることを示すものでした。

世界経済フォーラムが、男女格差の度合いを示すグローバル・ジェンダーギャップ指数の2018年版を発表しました。日本は調査対象となった149カ国中、110位でした。この現状に目を向け、日本の女の子たち、そして男の子たちが、性別にとらわれず、今よりももっと自分らしく、生きられる社会をめざして「女性の地位向上」の努力を続ける必要があると感じました。

大潟村でもエコロジカルな産業としての農業経営のあり方が問われ、女性たちの働き方に関しても、男性と平等に働き、なおかつ家事や家庭のことなど、女性の負担が多くあります。1999年には国の施策として、女性の地位向上のために、家族経営協定が策定されていますが、その意味が正しく理解されていません。女性の意思決定への参画と、労働評価を進めることが重要であると考えます。

今日的な問題は、女性にとってだけでなく、男性にとっても、抑圧的な「男らしさ、女らしさ」の枠を取り外すことです。男性の生き方も、女性と同じ重みで、性別役割分業から解放されるべきです。

男は「男らしく」あらねばと身がまえて、過剰に責任を背負い込み、「強く」あらねばと頑張る必要はないのです。女も「女らしく」をふりかざす必要もなく、自分の人生をどう生きるかという観点から、男女が共に、あらゆる場での責任を分かちあい、あらゆる方針決定と創造に、男女が共に参画することで、お互いよりやさしく、しなやかで豊かな社会をつくっていくことが重要であると感じています。

あきたF・F推進員とは??

「F・F」は、仕事や家庭、社会へ男女が共に協力し合いながら参画しあうという意味を込めた『Fifty・Fifty』の略です。F・F推進員は、男女共同参画社会の実現に向けて各市町村での取り組みや地域活動が活発に行われるよう、推進的な役割を担うリーダーで、

現在、大潟村には3名のF・F推進員がおります。



村づくり研修でデンマークを訪問された方々から寄稿文を 寄せてもらいました

デンマークのスコウファーセット・保育・幼稚園統合施設を見学して

斉藤 幸子

■デンマーク保育時間

6:30～16:00

※登園時間は決まっていません。

※登園時間が早い子どもには朝食サービスがあります。

■クラス編成

①0～2歳児

保育園または託児ママ制度のいずれかを選択できます。

※託児ママ制度とは

家庭保育という形態の自宅を活用した保育サービスで、保育者は特定の訓練を受けています。

②3～6歳児

幼稚園を利用します。先生の数、国で特に決められていません。

■保育方針

子どもたちが自分のことを自分でできるように、自助の援助に重点を置いています。

屋外での活動時間が多く、乳幼児のお昼寝も屋外に置いたベビーカーでしています。

■子どもの看護休暇

父母は「子どもの病気1日休暇」をそれぞれ取得することができます。

■訪問しての感想

デンマークの人は、自分の国の事にみんなが興味を持っています。そして、国自体が、子供がどう育ててほしいか！という思いがきちんと定まっていて、それに基づき幼児教育・家庭教育の方針が定まっています。一人ひとりを認め合い個々を大切にすること。また、赤ちゃんの時から人権の保障が始まっており、養育を援助し親への産休、育休、子どもの病気1日休暇などの有給休暇が保障されている事に感動しました。大湊こども園も素晴らしい保育者と理念・目標があります。新しい園舎も清潔感があり広々としています。保護者、保育者、村民一人ひとりが同じ方向に向けて、自分たちの使命を感じているかが、子供たちにとって、とても大切です。

「愛されて育った子は、人を愛する大人になる。社会に愛されれば、その子は社会の大事な人材になる」私たちも大湊村の地域社会の一人として大湊村の宝物を共に育てて行きましょう！





デンマークで感じた男女共同参画社会

大湊村議会議員 三村 敏子

街の道路には、多くの自転車が走り、フードで正面が覆われたベビーカー付き自転車がはしっていて、その中には寒いなか防寒着に身を包んだかわいい子供が乗っていました。デンマークは共働きすることが、ごく普通のことだそうです。共働きをしないと経済的にちょっと大変、とお話される方もいました。4時30分には仕事が終わわり、こどもを迎えにいきます。学校と同じ敷地に放課後児童クラブがあり、保護者が安心して働ける環境が整っています。

働きながら子育てしながらでも家族と過ごす時間が確保されています。日本の男女共同参画社会というのは、人権が尊重される社会です。一人ひとりが大事にされ、自分の個性や能力が発揮できる社会です。高齢になって介護が必要となっても、介護者は、介護される方の人間としての尊厳を守って介護しているそうです。女性議員が大変少ない日本と比べて、デンマークでは女性議員は別に特別なことではなくなっているとのこと。国会議員は40%が女性ですから、日本も村も40%になれば、特別なことではなくなるのでしょうか。



デンマーク 国民学校の子供たち

伊藤 尚子

学校での授業は、黒板に向かってみんなが授業を受ける日本のスタイルではなく、黒板は無く生徒一人ひとりに合ったテキストで、各々進み具合が違って良いのです。



また、音に敏感な生徒に対しては外からの音が入らないようにヘッドホンをして、学校生活を過ごしていました。

生徒が学校の理事会に理事として参加して、学校運営にも大きな影響を与えています。

学校生活の中で子供たちが一人の人間として自立し、尊重されていることに日本との違いを感じました。





坂東眞理子先生による講演会

大潟村婦人会 鈴木 富士子

2018年11月26日大潟村婦人会
50周年・JA女性部45周年の記念に
坂東眞理子さんに『今、求められる農
業・農村における女性の活躍』と題し
て講演をしていただきました。

長らく政府の中で男女共同参画を進
めてこられ、現在は昭和女子大学総長
であるとともに、農山漁村女性・生活
活動支援協会会長として、農業にも詳
しいお立場からのお話しを楽しみにし
ておりました。



農村の女性は、生産者であり経営者でもあるし、生活の面で女性は提案者にもなれる。都会
から見れば憧れのスタイル。

若い女性が帰ってくる農村であってほしい。

また、農業は「食」を生産するだけではなく、人を受け入れる、支えることもできる。「6
次産業」は食に限定しないで、いろいろな形を考えられる。福祉・教育・学習と連携すること
もできる。

「強い農業」に対して「やさしい農業」を提案したい。

「強いリーダー」に対する「やさしいリーダー」は女性になれる。

いろいろな人を巻き込んで、協力していく、「ちょっとかかわりたい人」のような農業のサ
ポーターが広がる必要がある。

ポジティブ心理学ーしあわせに生きていくためには？

ということをやってみよう！なんとかなるとい楽観性が大事。

以上、坂東眞理子さんの言葉を受けとめました。

ことさらに「男女共同参画」ということはおっしゃいませんでしたが、農業という分野で女
性が個性と能力を発揮できる提案をいただけました。農村女性への応援をうれしく思いました。

—編集後記—

この通信が「男女共同参画社会」について考えるきっかけとなり、ご家族の皆さんでこの通信の感
想を話し合っただけだと嬉しいです。（住民生活課 住民福祉班 担当者）

【お問い合わせ先】

大潟村 住民生活課 住民福祉班 TEL:0185-45-2114 FAX:0185-45-2162